

2014年10月5日

ブライアン・ブルエット牧師

ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #13

OICへようこそ。お越しいただきありがとうございます。私たちは今、他人宛の手紙を読んでいます。それは、使徒パウロがピリピの教会に宛てて書いた手紙です。パウロはこの教会を開拓し、信徒たちと親しい交わりがありました。ここ OIC で、私は皆さんのお名前を覚えようと一生懸命頑張ってきました。皆さんの笑顔を見ることができるのは、本当に感謝なことです。私たち夫婦はいつも、朝皆さんとあいさつするのを楽しみにしています。礼拝にいらっしゃった皆さんとお会いするときほど心温まることはありません。今日はピリピ人への手紙 4 章に入ります。この箇所は、聖書全体の中で私が大好きな聖書箇所のひとつです。何章何節と暗記していなくても、この章のみことばをきくと皆さんもご存じだと思います。今日のメッセージは「平静を保ち、不安を乗り越える」と題します。今日のみことばは、ピリピ 4:1-9 です。

ピリピ 4:1-9

4:1 そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。 4:2 ユウオデヤに勧め、セントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。 4:3 ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。 4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。 4:5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。 4:6 何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。 4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。 4:8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。 4:9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

パウロは、平静を保ち、不安を乗り越える方法をふたつ教えてくれます。

#1 人との平安を保つ。

ピリピ 4:1-3

4:1 そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。 4:2 ユウオデヤに勧め、セントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。 4:3 ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。

ピリピの教会では、指導者たちの間に対立があったようです。教会内の分裂は、円満で健全な教会を壊してしまいます。パウロは信徒たちに、不一致の問題を解決するよう勧めます。

争いの内容は定かではありませんが、投獄されていたパウロがローマからその問題を指摘するほどの大問題だったのでしょうか。この個所から、ふたりの女性が不仲であったことがわかります。おそらく礼拝に来て、お互い一番離れた席に仏頂面で座り、礼拝から何も得ずに帰ったことでしょう。相手の人に対する不満で頭がいっぱいだからです。以前にも申し上げましたが改めて言います。神は、私たちがひとつになって歩むのを望んでおられます。イエスはこうおっしゃいました。

ヨハネ 17:20, 21

17:20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。 17:21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおられるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。

イエスはみことばで、教会が愛と一致のうちに歩むなら、私たちの住む世界に大きな違いを生むことができるとおっしゃいました。この場所を一步出ると、ストレスと不安が満ちた世界です。神の家が慰めの場所となるように、私たちはできないでしょうか。分裂は、ストレスや不安を引き起こす要因のひとつです。もうひとつの方法は、

#2 自分自身のうちに平安を持つ。

ピリピ 4:4

4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

不安とは、最悪の事態を想定して、パニック状態になることです。私たちの社会ではどのようなストレスの要因があるのでしょうか。音に囲まれた生活はどうでしょう。iPhone や iPod、車の騒音など、私たちの生活は 24 時間休まることはありません。一方で、地域社会とのつながりは減少しています。これではストレスがたまるばかりです。ストレスがたまっているかどうかやってみ分けるのでしょうか。皆さんは次の項目にあてはまりますか。(1) 気分のムラが激しい、(2) いつも何かに腹を立てている、(3) 落ち込むことが多い、(4) 疲れているのに眠れない、(5) 小さなことにも感情的に反応してしまう。そのような日常を過ごす必要はありません。

ペテロ第一 5:6,7

5:6 ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。 5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

では、ストレスを乗り越えて平安を取り戻すにはどうすればよいのでしょうか。不安を乗り越えるための 7 つの教訓が聖書に見られます。

┆ 喜びの源を状況ではなくイエスとする。

ピリピ 4:4

4:4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

喜びは、私たちの人生に実る聖霊の実です。イエスとのつながりに喜びを見出せないなら、この実をつけることは難しいでしょう。

ガラテヤ 5:22, 23

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、 5:23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

II 寛容な対応をする。

ピリピ 4:5a

4:5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。

ストレスのたまった人はたいてい寛容ではありません。強い語気のEメールを送ってから、送らなければよかったと後悔したことはありませんか。寛容もまた、御霊の実です。

III イエスがいつもともにいてくださることを思い出す。

ピリピ 4:5b

主は近いのです。

主はいつもそばにおられます。皆さんとともにおられるのです。数年前、WWJD (What would Jesus do? イエスならどうする?) というのが流行りました。この考え方を毎日の生活に取り入れ、イエスがいつもともにいてくださることを認識することができると思います。主は遍在なるお方です。

IV 不安な気持ちを払いのける。

ピリピ 4:6a

何も思い煩わないで、

不安を払いのけ、何も思い煩わないことを私たちは選ばなければなりません。私たちには常に選択肢があります。状況に関わらず喜ぶのか、悩みや心配事に圧倒されるのかは自分次第です。不安でいっぱいの状態だと、しっかりと生きることはなかなかできません。

V 助けを祈り求める。

ピリピ 4:6b

あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。

自分を悩ましていることについてただイエスに話し、主の平安をいただくことです。私たちがストレスを抱えたまま生きることを、神は望まれません。私たちは神の御国の使節です。私たちの国籍は天にあることを忘れないようにしましょう。

VI 神のみことばに思いを巡らす

ピリピ 4:8

4:8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。

この世の悪い知らせに思いを巡らせている人がたくさんいます。中東問題は私も気になりますが、そのことで頭がいっぱいにならないようにしています。むしろ、神の愛や恵み、希望、そしてあわれみに思いを巡らしたいと思います。

VII 聖書の教えに従って歩む。

ピリピ 4:9

4:9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

神のみことばに思いを巡らすことと、従うこととは別です。神に背いたせいで、悩んだり不安になったり、怖くなったりすることがあります。この個所は、私たちが神のみことばに従うなら、神の平安が私たちとともにあると語ります。

まとめ

誰でも、「落ち着きなさい」とか「冷静になりなさい」と言われることがあるでしょう。生きていれば、なかなか平静でいられないような問題が起こります。そういう出来事にどう対処するかによっては、喜びを失わずにすみます。パウロがピリピの信徒たちに宛てて書いた手紙を思い出しましょう。これは、喜びの青写真と呼ばれます。つまり、喜びを持てる人生のための計画書です。イエスのために、この喜びを私たちの生き方で示して行きましょう。では祈りましょう。